

地域おこし協力隊通信

..... 第15回



リポーター：
森山健吾 隊員



皆さんこんにちは!!
15回目の協力隊通信です。今回は、潮来市地域おこし協力隊3期生に応募され、現在選考中の方を対象に2泊3日で実施した「おためし地域おこし協力隊」の話題をお届けします。(今回のプログラムは、企画から実施に向けての準備・調整等を現役協力隊員が行いました)
初日は、潮来の概要と着任後の活動について職員から説明。その後は、現役協力隊員との座談会が行われました。参加者の方とは歳も近いということで、固い雰囲気ではなく、ざつとばらんな感じで、リラックスできる雰囲気づくりを心がけながら交流を図りました。
2日目は、キーマン取材、酒蔵見学(愛友酒造)、道の駅いたこの見学、ろ舟遊覧(船頭体験)、あやめ笠づくり体験といった盛りだくさんなプログラムを実施しました。

そして、最終日は採用面接を行い、「おためし地域おこし協力隊」は無事、終了しました。(実施内容の詳細は、協力隊しんぶん8月号にも掲載していますので、ぜひ、ご覧ください)
さて、参加者の方は3日間の中で、どんなことを感じ、どんなことを考えたのでしょうか。初めて訪れる地域で、初めて知ることばかりだったと思いますが、楽しそうにされていますが、プログラムの功だったと思います。
最後になりますが、プログラム実施に際し、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

※おためし地域おこし協力隊とは
地域おこし協力隊として活動する前に一定期間、地域協力活動を体験し、受入地域とのマッチングを図るもの。平成31年度に総務省が創設。

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第54回

大学生向けのリモート型臨湖実習がスタート!

北浦湖畔(潮来市大生)にある茨城大学水圏環境フィールドステーションは、全国の大学生たちが湖沼の生態系や環境問題などについて学べる臨湖実習施設です。夏休み中には「公開臨湖実習」を開催し、たくさんの方の学生を受け入れてきました。初めて出会う専門も大学もバラバラの学生たちが、数日間寝食をともにしながら、魚を採ったり乗船調査をしたりして(画像は昨年の様子)、水郷の自然を体感しながら学べるこの実習は、人気を博しています。

ところが今年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、全国各地からやってきた学生たちが実習に取り組みむこと自体が難しい状況に。いわゆる三密や各地からの移動がリスクを伴うためです。とはいえ、このような状況下でも、この分野に興味がある学生たちに、体験の場を提供できないものか。教職員でよく検討した結果、今年度はリモート型公開臨湖実習を試行することになりました。今回の実習のラインナップは、①巨大湖の生態系と環境問題―霞ヶ浦や他地域の湖沼での調査・実験から理解する、②追跡! 巨大ナマズ―湖沼

北浦での小型地曳網による魚類調査



北浦での小型地曳網による魚類調査



北浦での乗船調査

の外来生物問題の最前線、③巨大湖を巡る―さまざまな最新調査ツールで霞ヶ浦の環境計測をしてみよう―の3コース。すでに応募を締切り、8月半ばから実施予定です。
完全リモートということで、例年よりも遠隔講義の時間が多くはなりませんが、調査キットを受講者の自宅に送り、各地の湖沼などを調査してもらい、そのデータを参加者全員で共有して議論する予定です。また、水郷の素晴らしい自然やそこで生じている様々な環境問題についても、全国の学生たちに動画などで見てもらいながら学んでいきます。学生たちの自宅からリモートで参加できる臨湖実習という、新たな学びの場が今夏スタートします。

加納 光樹